

第65号
令和2年(2020)11月15日

発行人
NPO法人成田・里山を育てる会

成田・里山通信

理事長 富樫 武
電話 0476-27-3487
事務局 相原 亮司
電話 0476-35-1550



苔を虚仮にしない

新型コロナウイルスの蔓延で自粛生活を強いられています。里山の会も野外活動以外のイベントは総て中止です。そんな状況であっても日々の生活は楽しんで過ごしたいものです。

私は目覚めと共に散歩に出かけます、まだ薄暗い時間なので景色はよく見えませんが街灯の明かりの下、側溝の隙間に生えている苔を見つけました。

先日成田山公園を散策中至る所に苔を見つけこんなに苔があったのかと気付かされました。滝の周辺の石垣、樹木の根元、石塔の周辺など水気の多い場所が苔が育つ条件のようです。苔に興味がないと気が付かないと思います。

最近では苔玉、瓶に詰めた苔リュウムを愛てるコケ・ガールなる人種も登場しているそうです。

ひっそりと息づく緑の絨毯を見に行きたい。渋谷、古刹(コサツ=古寺)、山岳、古道、や屋久島といったところに。しかし、手始めに身近にあるコケの観察から始めようと思います。

*苔とはどんな植物でしょうか

本によると植物の先祖は水の中で生まれ少しずつ陸での生活に適応し始める。藻類、コケ植物、シダ植物、種子植物となるがコケは最初に陸での生活に適



応した植物とされる。46億年前地球が出来、40億年前に最初の生物が海中で誕生し、32億年前に海の中で光合成する生物の祖先が生まれ酸素が大気中に放出され、10億年前に藻類が誕生した。光合成する植物が繁茂することで放出される酸素が増えオゾン層が形成された。オゾン層が有害な紫外線をやわらげ生物が陸で生存できる条件ができた。

約4億5千万年前に陸での生活が可能になった植物が現れる。この最初に陸に上がった植物の子孫で世界中の様々な環境下で自生しているのが苔だそうす。緑藻類から苔になるまで実に5億年近い時間を要したと知ると興味がわく(苔)です。
*くれぐれも苔を虚仮にしないでください。

瀬戸 正廣



8月 9月 10月の活動&イベント

8月2日 アグリパーク 自由参加 11名
アグリパーク 全体草刈り
久能地区山林整備&草刈り

8月23日 山野草勉強会 自由参加 15名
空港会社からの資料を基に作成した写真をスライド見ながら、個々の植物の自生地や特徴を学びました。この勉強会で学んだことを参考にして草刈りすれば今まで見落としていたものが見え、より深い探求心がわくと思います。

9月6日 果樹園 自由参加 10名
栗園草刈り
キノコ周り草刈り
共同農園 さつま芋草取り
東屋周り掃除と整理
天候不順にもかかわらず10名の参加者
*栗の収穫期前に草刈りが出来て一安心

9月13日 花の回廊 自由参加 12名
取香川堤防 桜の小公園 草刈り
取香川堤防 桜の小公園共に夏場の2ヶ月間で想定以上に草が成長がはやく、草刈りにが一苦労。
この時期は毎年草との戦いの季節です。



話の輪が広がる休憩時間

9月20日 遊歩道 定期活動 13名
遊歩道受け持ち区域 草刈り
旧植林地、新植林地、竹伐採地、花畑など広い範囲の草刈りが出来た。
*作業前、フリーティングで今日の作業場所と内容の指示があり、作業に入る。
各自が自分の使用する道具を選び、配置につく、実に手慣れた行動はプロ並みです。

8月 9月 10月の活動&イベント

10月3日 遊歩道 自由参加 12名
 ヨシ自生地 草刈り
 一部が湿地のためハンマーナイフと草刈り払い機の併用で行う。
 伐採した竹の整理（冬場に植林予定地）の線引き。

*暑かった夏も過ぎすっかり秋の様相。
 彼岸花に囲まれ、イワシ雲を見上げ、ひっきりなしに聞こえるツクツクホウシの鳴き声、体いっぱい秋に包まれて過ごす昼休みは至極の時間です。里山活動に参加したご褒美かなと自己満足。

*スズメバチの子育ての季節
 草刈りの途中、スズメ蜂の巣を見つける。
 外来者に知らせる立て看板（日本語、英語）を設置



遊歩道 10月3日

10月22日 23日 24日
 チェンソー講習会
 10名 x 3回

チェンソーで木を切る業務を行うには、労働安全衛生規則にもとづく特別教育を修了しなければなりません。チェンソー特別教育内容が改正され、2020年2月公布、2020年8月より施行されました。そのため2020年8月以降は「新規特別教育」を修了しないとチェンソーの使用はできません。



10月25日 アグリパーク 自由参加 12名
 菜の花 種まき
 草刈り
 サクラ間伐



サクラ間伐
アグリパーク
2020年
10月25日

チェンソー講習後最初の活動日
 学んだことを忠実に実践

10月4日 果樹園 自由参加 13名
 菜もピークを過ぎ一回目のイガ集め、親子野外体験2組4名の児童の参加。子供は楽しそうに菜拾をしていた。赤ちゃん、子供、若者、壮年、高齢者で構成される人間社会、活動日に子供の参加があると明るい雰囲気生まれる。

*古い草刈り機の整備
 *高仲ヒノキ林草刈りと枝打ちした枝粉碎作業

10月18日 依頼山林 定期活動 15名
 整備依頼山林（畑ヶ田地区）草刈り
 広い山林、草が生い茂り、里山と生活が結びついていない実態を感じさせられた。
 *道路に面した場所は不法投棄のゴミの山。立て看板など無視したこの行為は文明国とは言い難い。

不法投棄のゴミ



色鮮やかなマユミ

アグリパーク
2020年
10月25日



アグリパークの山野草 ④

アグリパークで新種の草花に出会いました。
 サラシナショウマとヒヨドリバナです。
 サラシナショウマは場所を相原さんに教えられ、行ってみると遠目には森の妖精の舞かと思つほどの光景でした。この幻想的な妖精の舞姿はいつまでも残像が頭に残りました。

サラシナショウマ (晒菜升麻)

- *キンボウケ科の多年草
- *秋に白い花をたくさんつける山野草
- *ヤマショウマ、エソショウマの別名もある
- *名前の由来：
 サラシナ：葉や茎を水にさらしてアクと臭みを抜き山菜として食べることに由来しサラシナとよばれた。
 ショウマ：葉の薬効が麻に似ているという味の中国名
- *分布：日本 アジア 中国北部
- * 生息場所：林の中の木陰



森の妖精 (上)
 2020年10月25日
 アグリパークで


カラシナショウマ
 花拡大写真 (右)



*新しい山野草に出会い感動、これから、もっと観察眼を高め新種 (私個人の) 発見を目標に里山活動を続けたい。

XXXXXXXXXXXX

8月 9月 10月の活動
 イベント参加延べ人
 128名



ヒヨドリバナ (鴨花)

- ヒヨドリバナとは：キク科の多年草
- 分布：日本各地
- 名前の由来：鳥のヒヨドリが山から里へ下りてくる時季に咲く花の意
- 背丈：1mくらいになる
- 姿勢：直立ではなく斜めに傾いて生えているのが特徴
- 場所：市街地には生えない
- 天敵：夏場に行われる人間による無差別な草刈りて刈られてしまうこと



アグリパークで撮影、2020年10月25日

XXXXXXXXXXXX

写真で見る懐かし版



椎茸BBQ 2013年10月 (上)
 小田原城 2015年6月14日 (下)



伝説 成田市大清水(地名)の由来

資料提供 佐藤陽一氏



この話は、故高仲三郎翁が晩年脳梗塞を患い、病床に伏す日々の中で、幼い頃祖父母や村の長老から聞いた話を思いだし「何とか大清水の名前の由来を後世に伝えたい」と念じ右半身付随のため左手で記した伝説

の一部です。

現在の遠山公民館あたりに樹齢何十年の松の老木があった。その松の木の下に畑ヶ田村から万半衛という老人がやって来て、ヨシズ張りて旅人の憩いの場となる茶店を開いた。その年は百日の日照りの大旱魃で作物はもとより草木まで枯てしまう大飢饉でした。頃は平安朝時代、弘法大師が諸国を行脚、万民を助けて回った。ある日、みすほらしい孫の老僧が万半衛の店を訪れ、一杯の水による想いを頼んだ。すると万半衛は折角だがご覧の通り日照りて井戸は涸れ水は一滴もありませんと答えた。それを孫の僧は気の毒そうに聞き入った。そこで正直な万半衛は、「しばらくお待ちなせえ、私が畑ヶ田村から水を求めて来て差し上げましょう」と言い残し、盆前清水（お盆前だけ清水が湧く自然井）、場所は私たちの果樹園と国際福祉大病院の間にある谷津田奥の水源地からヒサゴ（瓢箪）一杯水を汲んできた。

老僧は万半衛が汲んできた水を「ありがたや、ありがたや」と押し頂き、間をおいて「爺よ、この坂の下に藤が絡みついた松の木があるはずだ、その元三尺掘れば清水が湧くよ」教えてくれた。翌日万半衛は教えられた通り掘ってみた。すると岩の隙間からもくもくと清水が湧きだしてきた。

その後風の便りに「偉い坊さんが芝山街道を通ったはず、その名は弘法大師だそうなの噂が流れた。万半衛ははたと膝を叩き、清水の話をついに村人に伝えた。人々は「これは大師様の御加持の水」だと言いこの場所を大師水と名付けた。

この地区は、音、下総の国下埴生群駒井野村大字針ヶ澤小字大師水となる。明治維新で千葉県印旛郡遠山村大字駒井野大清水となった。昭和29年7ヶ町村が合併して千葉県成田市大清水が現在の地名である。

*「大師水」が変じて「大清水」となった。

大師水は千年以上たった令和の今も涸れる事なく湧き続けています。写真下

*時代の移り変わりとともに、由緒ある大清水が現代人から忘れられるのが遺憾に堪えない。

*大清水風祭り

弘法大師水に因んで建立された清水神社が泉の手前にあり、地区の人達は伝説を守り大師水と神社の清掃をしています。今年の8月に五穀豊穡祈願、新型コロナウイルス感染症鎮静祈願が執り行われました。



*遠山公民館は年次総会、役員会の利用で成田・里山を育てる会も少なからず縁があます。

この伝説を是非知ってもらいたい。

雑草 との付き合い

家庭菜園は目的の野菜より雑草退治に明け暮れている、しかし、数ある雑草も名前を知っているのは極わずか、これまでもこれからも付き合っていく雑草のことを勉強するのも面白いと思い始めました。手始めに退治するのに苦労する雑草を取り上げてみます。その代表格がハマスゲ、スギナ、カタバミ、ドクダミ、は地上部を切り取っても地下根、塊茎で繁殖する手ごわい相手。退治するには深く掘り起こし根や塊茎を取り除くしかない。完全除去は困難だが除草剤の使用は控えたい。オヒシバは作物に覆いかぶさるほど成長する厄介もの、小さい時に除草すれば簡単。

オヒシバ

カタバミ



ハマスゲ 根と塊茎



スギナ

雑草と遊んでいたら20年近い歳月が流れた。雑草以外にも種まいても芽が出ない、芽が出ても季節はすれて育たないと失敗は毎年です。が、これは生業ではなく新しいことへの挑戦と運動が主目的と無理矢理自分に言い聞かせている。

まだやるぞ